

# 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和七年十二月度 入賞句一覧

投句数 四百六十九句

特選

指を切る紙の薄さや神無月

東京都新宿区

花澤 ちいこ

我が家では、暇さえあれば小生は句作に、妻は折り紙の先生で、折り紙を。その妻がついこの間、折り紙で指を切つた。この句を拝見した時、思ひのほか血の出た妻を思い出した。同時に、季語の「神無月」が良いと感じた。なぜなら、神様に早く血が止まるようお願いしても、神様が出雲なら仕方がないと感じたからである。

しわの手を揉んで伸ばして柚湯かな

大垣市

北浦 典子

小生ももう少しで傘寿に手の届く歳となつた。男性の健康新生は七十二歳、女性は七十五歳。本当に痛感するこの頃である。時々痛くなる腰を、この間は柚湯の中でも三十分間揉み続けた。柚の効果でしばらくは良くなる。これからも続ける所存だ。

遠き子にメモ添へ送る今年米

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

我が家の息子と娘ももう五十歳を過ぎた。昔下宿していく頃、よく米を送つたことが懐かしく思い出される。小泉農水大臣が頑張つて、一時3500円くらいになつたが、また4500円、5000円に。遠くで下宿する子供さんを持つ親御さんは大変だと痛感する。

秀逸

柿すだれ一竿の軒あたかき

不破郡垂井町

児玉 信子

石組みを今に朝倉石蕗の花

大垣市

小林 研

若者の夢語りつつ日記買ふ

本巣市

安田 むつこ

駆除といふ人の身勝手神の留守

大垣市

小泉 裕子

寒暖の無我の坐禅や永平寺

廣島県福山市

栗本 リカ

「連れ合ひ」てふ美し言の葉小春縁

愛知県豊田市

城山 悠水

長き夜や熱き紅茶と小説と

滋賀県大津市

中常 かつたるー。

次郎柿女所帶に息詰まる

東京都武蔵野市

木嶋 純子

面白く語り合う過去おでん酒

埼玉県さいたま市澤田 純

## 入選

前撮りの晴れ着姿の七五三

冬晴や「聖者の行進」駅通り

大垣市

櫻井 秋櫻

久保田 悟義

ただ今と言へる幸せ福寿草

大垣市

宮上 美濃留

小春日や眠り食る庭の猫

岐阜市

寺島 錠太

傘の字の家族四人や暮れの雨

東京都狛江市

椎野 一恵

冬はじめ口紅引きてクラス会

大垣市

酒井 和美

橋の辺に帰り花咲くむすびの地

三重県度会郡

下地 ゆきよ

冬北斗子去りし後の波の音

三重県四日市市

井立 美智乃

隙間風昭和の社宅なつかしき

東京都江戸川区

羽住 博之

舞ひ上がり風に乗らむと枯葉かな

大垣市

吉田てるみ

凧や色なき街の赤い靴

神奈川県川崎市

立野 音思

オリオンの三ツ星見つめ願ひごと

京都府京都市

原 強

櫻田に日の燐燐と群雀

三重県四日市市

後藤 允孝

小春日のおもちやの医者の開院日

岐阜市

寺町 敬司

老いてなほ母への思ひ冬椿

長野県下伊那郡

長沼 まさし

## 選者吟

時雨るるやみなで伏見の女酒

誠 一



## 一般の部